

2026 年 10 月 23 日

台湾・9月の輸出受注額も過去最高を更新(Asia Weekly)

～世界的な AI・半導体関連需要の旺盛さが引き続き輸出受注をけん引～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(Tel : 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/19(月)	(ニュージーランド) 9 月輸出(億 NZドル)	64.7	--	64.8
	9 月輸入(億 NZドル)	84.4	--	80.2
	(中国) 7-9 月実質 GDP(前年比)	+4.5%	+4.4%	+4.3%
	9 月小売売上高(前年比)	+1.1%	+0.6%	+0.4%
	9 月鉱工業生産(前年比)	+5.5%	+5.5%	+5.2%
	9 月固定資産投資(年初来前年比)	▲7.2%	▲7.3%	▲7.2%
	(マレーシア) 9 月消費者物価(前年比)	+1.8%	+1.9%	+1.9%
	9 月輸出(前年比)	+54.5%	+44.6%	+45.5%
	9 月輸入(前年比)	+52.7%	+43.2%	+41.1%
10/20(火)	(台湾) 9 月輸出受注(前年比)	+62.4%	+58.7%	+71.4%
10/21(水)	(インドネシア) 金融政策委員会(政策金利)	5.75%	5.75%	5.75%
10/22(木)	(ニュージーランド) 7-9 月消費者物価(前年比)	+3.7%	+3.8%	+4.1%
	(韓国) 金融政策委員会(政策金利)	3.00%	3.00%	3.00%
	(フィリピン) 金融政策委員会(政策金利)	5.50%	5.25%	5.00%
10/23(金)	(シンガポール) 9 月消費者物価(前年比)	+2.2%	+2.4%	+2.3%
	(台湾) 9 月失業率(季調済)	3.33%	--	3.32%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～世界的な AI・半導体関連需要の旺盛さがけん引役となり、9月の輸出受注額は過去最高を更新～

20 日に発表された 9 月の輸出受注額は前年同月比+62.4%となり、前月(同+71.4%)から伸びが鈍化した。しかし、前月比(季調済)は+1.1%と前月(同+5.9%)から伸びが鈍化したものの、拡大基調を維持しており、単月ベースの輸出受注額は過去最高を更新している。品目別では、光学機器関連の受注に下押し圧力が掛かっているものの、半導体をはじめとする電子部品関連の受注が引き続き旺盛な動きをみせているほか、情報通信関連、電気製品関連、化学製品関連などでも拡大の動きが続いている。国・地域別でも、最大の受注先である米国向けが大きく拡大しているほか、中国本土・香港向けや欧州向けも堅調に推移し、ASEAN(東南アジア諸国連合)向けなど新興国向け

も拡大しており、世界的なA I（人工知能）・半導体関連需要の旺盛さが輸出受注を押し上げている様子がうかがえる。

23日に発表された9月の失業率（季調済）は3.33%となり、前月（3.32%）から0.01pt悪化した。失業者数は前月比+0.1万人と前月（同▲0.1万人）から2ヵ月ぶりの増加に転じている。既卒者、新卒者問わず全般的に増加基調に転じているほか、自発的失業、非自発的失業ともに増加する動きが確認されている。一方の雇用者数は前月比▲0.4万人と前月（同+0.2万人）から2ヵ月ぶりの減少に転じており、世界的なA I・半導体需要の旺盛さを反映して製造業で持ち直しの兆しがみられるほか、建設業では堅調さがうかがえるものの、サービス業で頭打ち感が出ている。雇用環境に変化の兆しが出ていることを受けて、労働力人口は前月比▲0.2万人と前月（同+0.1万人）から2ヵ月ぶりの減少に転じており、労働市場には一部で弱含みの動きがうかがえる。

図1 TW 輸出受注額の推移

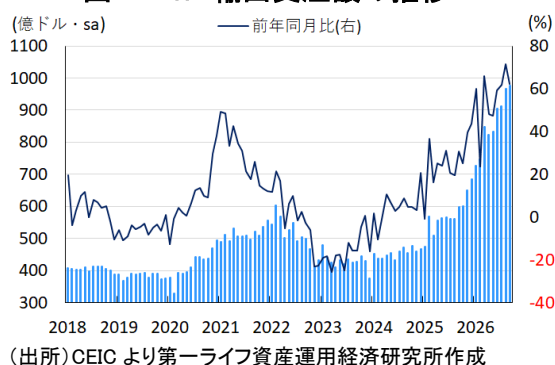
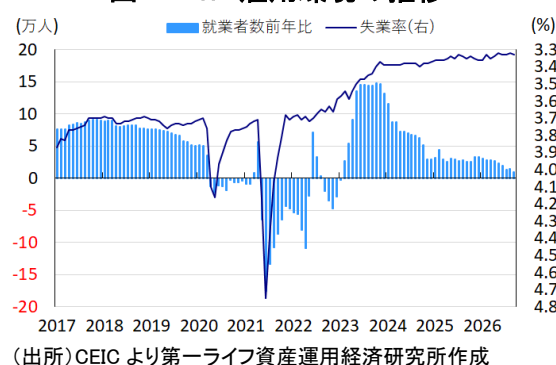


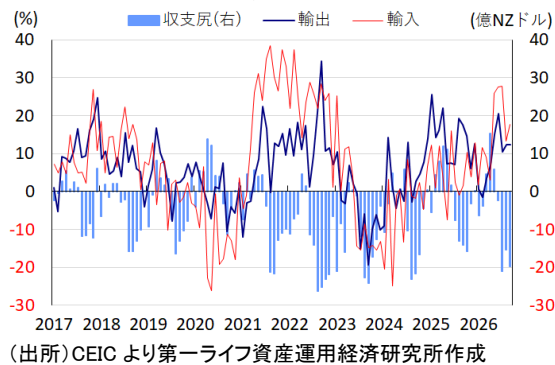
図2 TW 雇用環境の推移



[ニュージーランド]～主力の乳製品や食肉を中心に輸出は堅調も、輸入は頭打ち感が強まる～

19日に発表された9月の輸出額は前年同月比+12.3%となり、前月（同+12.4%）からわずかに伸びが鈍化した。しかし、前月比は+0.6%と前月（同+5.2%）から増加ペースが鈍化したものの、2ヵ月連続で増加するなど持ち直しの動きが続いている。財別では、原油価格の調整を反映して原油の輸出額が大きく下振れしたほか、機械製品関連や果物の輸出額も下振れしたものの、主力の輸出財である乳製品や食肉の輸出が堅調に推移していることが輸出全体を下支えしている。国・地域別では、米国向けやEU向け、日本向けなどが軒並み低調となる一方、最大の輸出先である中国向けやASEAN諸国向けが堅調に推移しているほか、隣国オーストラリア向けにも底堅さがうかがえる。一方、輸入額は前年同月比+17.7%となり、前月（同+13.2%）から伸びが加速した。ただし、前月比は▲0.2%と前月（同▲7.9%）に続いて2ヵ月連続で減少しており、頭打ち感が強まっている。財別では、原油・石油製品関連の輸入が堅調に推移する一方、機械製品関連のほか、プラスチック関連などの素材・部材関連の輸入が下振れしたことが輸入全体の重しとなっている。その結果、貿易収支は▲19.71億NZドルと前月（▲15.36億NZドル）から赤字幅が拡大した。

図3 NZ 貿易動向の推移

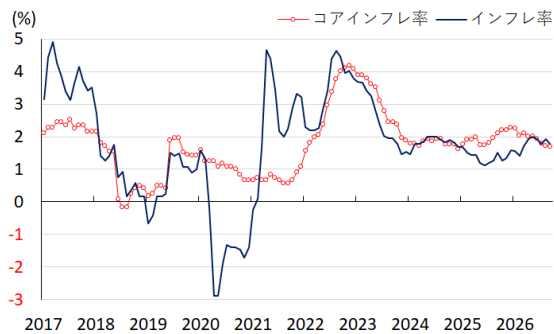


[マレーシア]～世界的な AI・半導体関連需要の旺盛さを追い風に、9月の輸出入額はともに過去最高に～

19日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+1.8%となり、前月（同+1.9%）からわずかに伸びが鈍化した。前月比も+0.07%と前月（同+0.29%）から上昇ペースが鈍化しており、政府による電気料金の負担軽減措置などを背景に住居・光熱費関連の物価上昇率が鈍化したほか、食料品価格の上昇の動きも一服しており、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退したことが影響している。なお、価格変動の大きい生鮮食品や政府の価格管理対象品目などを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.7%となり、前月（同+1.7%）から2ヵ月連続で横ばいとなった。前月比は+0.29%と前月（同+0.29%）と同じペースで上昇しており、基調的な物価上昇圧力は根強く残っている。一方、輸送関連の物価上昇率が加速するなど、エネルギー価格の上昇による影響が一部で顕在化しているほか、外食・宿泊関連の物価上昇率も加速しており、物価の動きには品目ごとにばらつきが生じている。

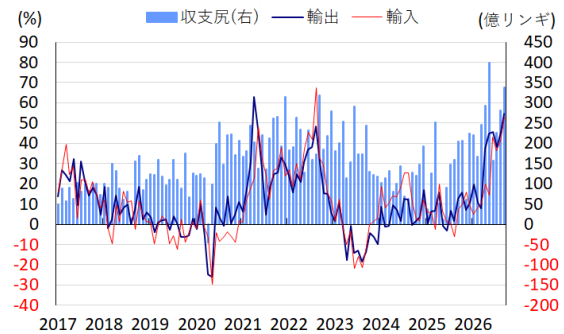
同日に発表された9月の輸出額は前年同月比+54.5%となり、前月（同+45.5%）から伸びが加速した。前月比（季節調整値）も+10.0%と前月（同+1.3%）から上昇ペースが加速して3ヵ月連続で拡大しており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新するなど堅調な動きをみせている。財別では、世界的なAI（人工知能）・半導体関連需要の旺盛さを反映して、半導体など電子部品関連の輸出が大幅に押し上げられたほか、原油や天然ガスなどの価格上昇を受けて、鉱物資源関連の輸出額も拡大した。一方、パーム油をはじめとする農産品関連の輸出は減少したほか、化学製品関連の輸出も弱含むなど、財ごとの動きにはばらつきがみられる。一方の輸入額は前年同月比+52.7%となり、前月（同+41.1%）から伸びが加速した。前月比（季節調整値）も+11.9%と前月（同+1.2%）から上昇ペースが加速して4ヵ月連続で拡大しており、単月ベースの輸入額も過去最高を更新した。輸出の堅調さを反映して、生産活動に必要な機械製品関連の輸入が大幅に押し上げられたほか、化学製品関連などの素材・部材の需要も旺盛に推移している。さらに、原油価格などの上昇を受けて鉱物資源関連の輸入額も押し上げられている。その結果、貿易収支は+337.24億リングとなり、前月（+280.85億リング）から黒字幅が拡大した。

図 4 MY インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

図 5 MY 貿易動向の推移

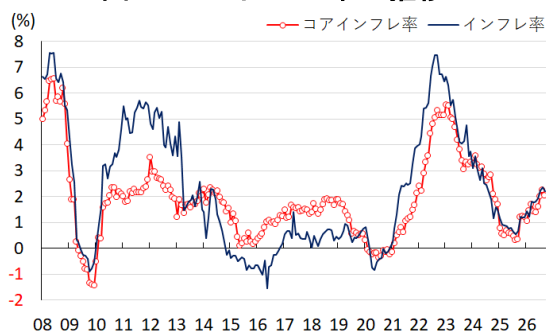


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[シンガポール]～生活必需品やサービス物価に上昇圧力は残るも、インフレ率・コアインフレ率は鈍化～

23日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+2.2%となり、前月（同+2.3%）からわずかに伸びが鈍化した。前月比も+0.21%と前月（同+0.62%）から上昇ペースが鈍化したものの、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇しているほか、電気・ガス価格も高水準で推移するなど、生活必需品では物価上昇圧力が根強く残る動きがみられる。住居費と民間輸送費を除いたコアインフレ率も前年同月比+2.0%となり、前月（同+2.2%）から伸びが鈍化した。前月比も+0.06%と前月（同+0.27%）から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の高止まりを反映して輸送関連サービスの価格に押し上げ圧力がかかる一方、金融市場におけるSGドルの名目実効為替レートの上昇が輸入物価の上昇圧力を和らげる方向に作用していると考えられる。さらに、家具や衣料品などの小売関連を中心に財価格の上昇圧力が和らいでいるほか、サービス物価も上昇ペースが鈍化している。一方で、食料品や一部のサービス価格には上昇圧力が根強く残っており、物価の動きにばらつきが生じている。

図 6 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以 上